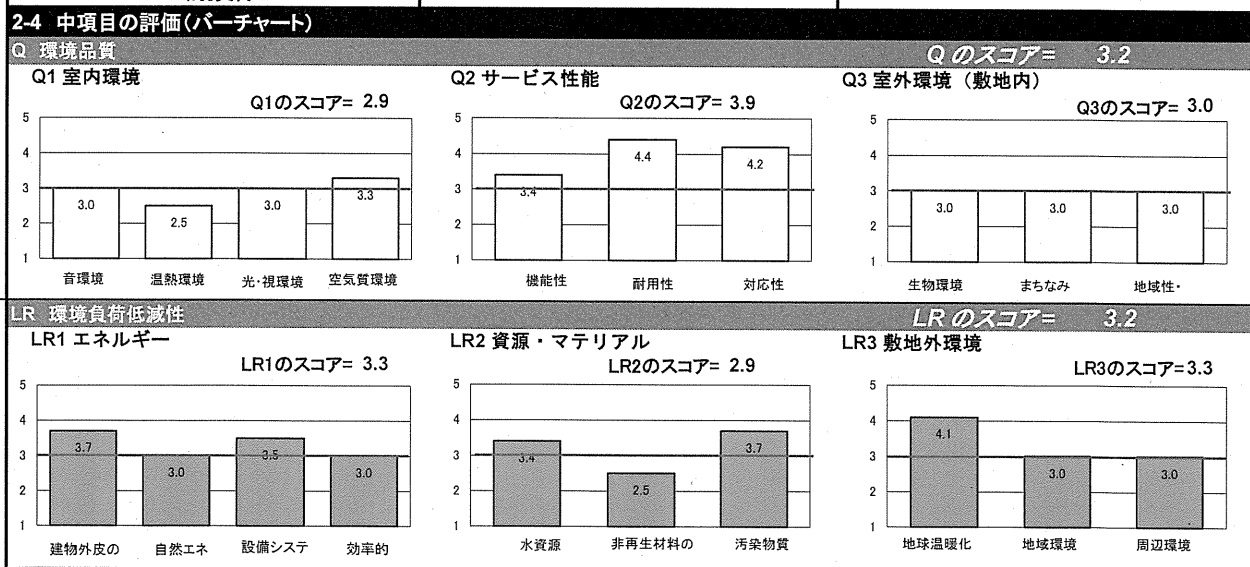
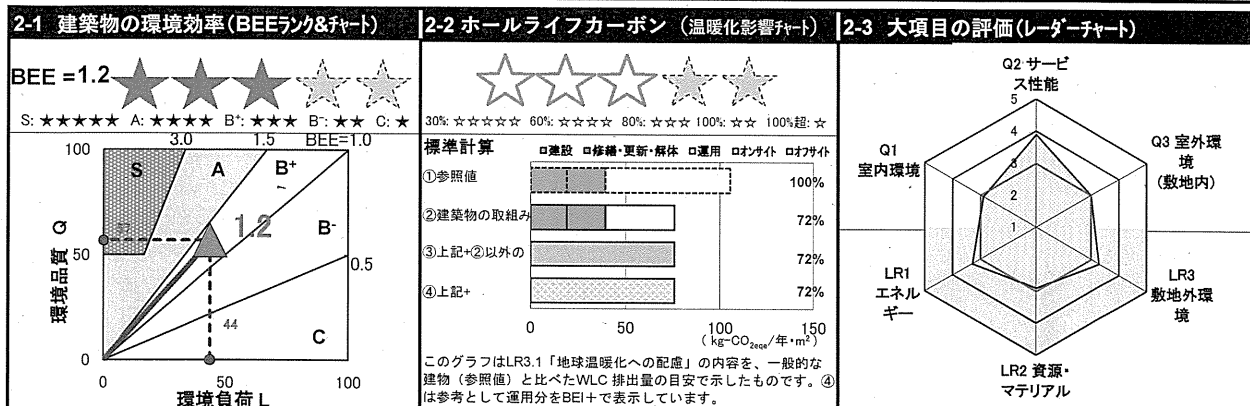
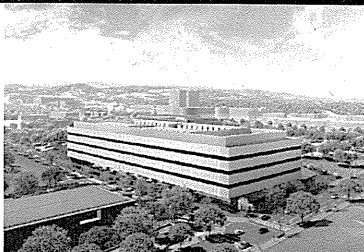


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)精華町光台二丁目計画新築	階数	地上4F
建設地	京都府精華町	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月 予定	評価の実施日	2025年6月20日
敷地面積	19,694 m ²	作成者	株式会社日建設計
建築面積	10,831 m ²	確認日	2025年6月30日
延床面積	38,732 m ²	確認者	株式会社日建設計



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
データセンターとして高効率の設備機器を採用することで環境負荷を低減。基礎免震構造の採用により高い耐震性を実現。敷地面積の30%以上を緑化することで周辺の街並みや生態系に配慮した計画とした。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (数地内)
執務空間は南東面の外壁に面して配置し、断熱複層ガラスによって自然採光と快適な室内環境を両立させた。	一人当たりの執務スペースを多く確保し、大きなリフレッシュスペースも提供。また基礎免震構造の採用により高い耐震性を実現。	敷地面積の30%以上を緑化することで豊かな緑地空間を創出し、緑豊かな周辺環境との調和を図る。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 数地外環境
データセンター用途にはターボコア圧縮機およびECファンを搭載した空冷チラーを採用し、二次側はECファン搭載ファンウォールユニットおよびCDUを採用することによりPUEを向上。	節水型便器やGWPが低い発泡剤の利用など、環境負荷に配慮した計画とする。	適切な量の駐車場、駐輪場を計画し、専用の荷捌き駐車場も設置すること周辺の交通負荷抑制に寄与。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

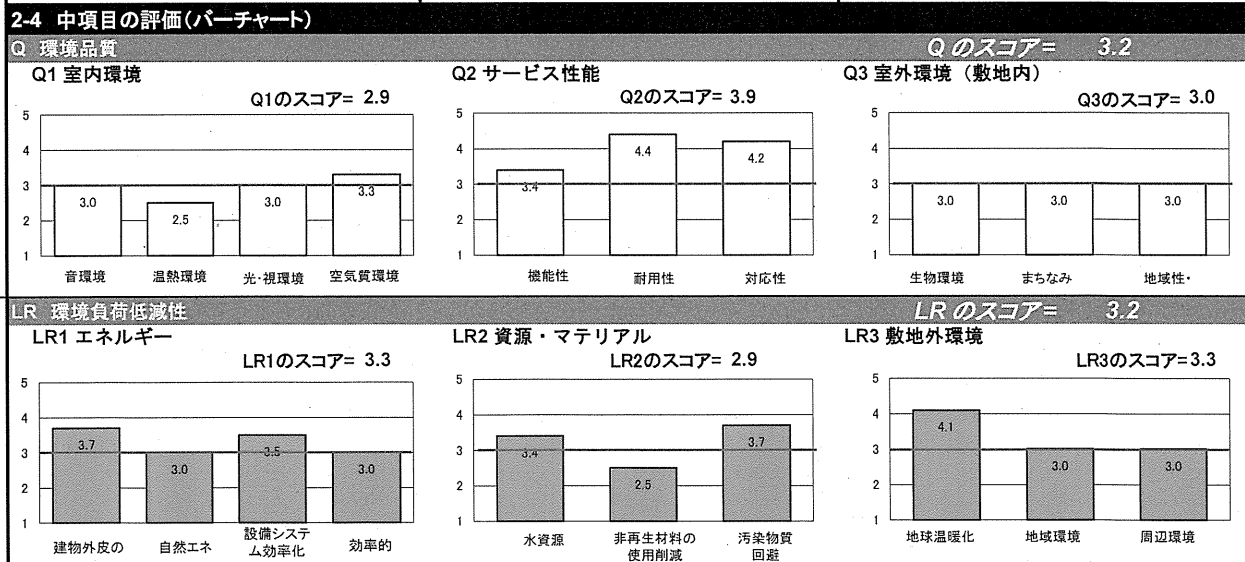
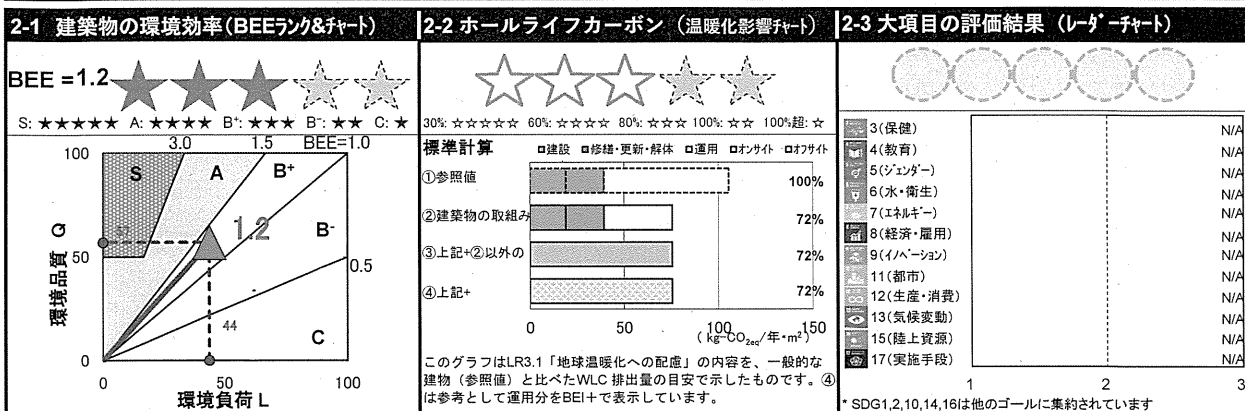
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)精華町光台二丁目計画新築	階数	地上4F
建設地	京都府精華町	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月 予定	評価の実施日	2025年6月20日
敷地面積	19,694 m ²	作成者	株式会社日建設計
建築面積	10,831 m ²	確認日	2025年6月30日
延床面積	38,732 m ²	確認者	株式会社日建設計



3 設計上の配慮事項		
総合 データセンターとして高効率の設備機器を採用することで環境負荷を低減。基礎免震構造の採用により高い耐震性を実現。敷地面積の30%以上を緑化することで周辺の街並みや生態系に配慮した計画とした。		その他
Q1 室内環境 執務空間は南東面の外壁に面して配置し、断熱複層ガラスによって自然採光と快適な室内環境を両立させた。	Q2 サービス性能 一人当たりの執務スペースを多く確保し、大きなリフレッシュスペースも提供。また基礎免震構造の採用により高い耐震性を実現。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地面積の30%以上を緑化することで豊かな緑地空間を創出し、緑豊かな周辺環境との調和を図る。
LR1 エネルギー データセンター用途にはターボコ圧縮機およびECファンを搭載した空冷チャillerを採用し、二次側はECファン搭載ファンウォールユニットおよびCDUを採用することによりPUEを向上。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器やGWPが低い発泡剤の利用など、環境負荷に配慮した計画とする。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場、駐輪場を計画し、専用の荷捌き駐車場も設置すること周辺の交通負荷抑制に寄与。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される